

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県央会場

#### 科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ 児童虐待や貧困家庭について学んだ。将来を担う子どもを社会全体で支えていかななくてはならないこと、そして少しの変化に気づき、対応していくことの大切さを改めて考えさせられた。子どもは自分1人では生きていけない。親も家庭も選べない。立場が弱いからといって、大人の都合で、その子の未来を閉ざしてはいけない。頼れる人や相談窓口をもっともっと活用して、子どもの将来を守ってあげられるような支援や取組が広がって欲しい。
- ◆ 近年、ネットやテレビなどで虐待事件をよく見るようになった。やってはいけないことをやる虐待。やらないといけないことをやらない虐待。など様々な形で子どもたちに被害が起こっている。防ぐために自分たち第三者が勇気を持って話を聞いたり、伝えることが大切だと思った。他人の家庭事情に立ち入ることはとても難しいことだが、子どもとの信頼関係を築き、小さな「SOS」に気づけるようになっていきたいと思いました。
- ◆ “貧困”ということが学力、人間の成長過程、社会、未来においても大きな影響が出てくることに大きな意味を教えられました。「それぞれの家庭にどんな事情があっても生まれ育った環境によって子どもの将来が閉ざされることがあってはなりません」と資料の言葉にあったように、平等に学んで安心して生活出来ることが大切であり、その多様な関係者の輪の1つの放課後児童クラブとして、子どもたちが夢や希望をもって毎日過ごしていけるように見守っていきたいと思いました。
- ◆ 子どもの健全な成長発達にとって「最善の利益」を確保するために、子どもたちそれぞれのライフステージに応じた切れ目のない支援を提供できるような体制を取れるようにしていきたいと思う。また、虐待は身体や心理的、知的発達面など様々な影響を受けてしまう場合があるので、もし、気になることがあったら周りの人と相談しながら早期に対応できるようにしたいと思う。
- ◆ 普段、日常的に接している周りの人の“気づき”が重要になってくると感じました。放課後児童クラブの支援員と子どもたちの独特の距離感で気づけることはたくさんあるような気がしました。支援としては、理解のもと、必要な人に確実に届くような方法を考えて工夫し、ネットワークや今ある社会の仕組みを情報として自分たちの身近なものとし、利用していかなければ手厚い支援は出来ないと思いました。